

熊本市第7次総合計画 中間見直しの経緯について

| | 議会 | 市民意見・審議会 | 庁内 |
|-----|--|--|---|
| 3月 | 平成31年第1回定例会 推進体制、スケジュールを説明 | | |
| 4月 | | | 第1回作成会議 「考え方」「方向性」等を審議 各局PT合同会議 ※以降、各局PT随時開催 |
| 5月 | | ○ドンドン語ろう(5区) ○農水版ワークショップ | 第2回作成会議 「前期計画の検証結果」「後期計画の重点的取組」を審議 |
| 6月 | 令和元年第2回定例会 「前期計画の検証」「後期計画の重点的取組」を説明 | 第1回中間見直し委員会 「前期計画の検証」「後期計画の重点的取組」を審議 | |
| 7月 | | ○ドンドン語ろう(農水版) | 全局PT ※以降、随時開催 |
| 8月 | | 第2回中間見直し委員会 「基本構想見直し素案」「基本計画の見直しの方向性」を審議 ○ドンドン語ろう(産業版) ○学生ワークショップ | 第3回作成会議 「基本構想見直し素案」「基本計画の見直しの方向性」を審議 |
| 9月 | 令和元年第3回定例会 「基本構想見直し素案」を説明 | ○ドンドン語ろう(外国人版) | |
| 10月 | | ○復興アドバイザー最終提言 | 第4回作成会議 「基本計画見直し素案」を審議 |
| 11月 | 令和元年第4回定例会 「基本計画見直し素案」を説明 | ○総合計画シンポジウム 第3回中間見直し委員会 「基本計画見直し素案」を審議 ○ドンドン語ろう(城ホール) | 第5回作成会議 「基本計画見直し素案」を審議 |
| 12月 | | ○パブリックコメント | |
| 1月 | | ○地域説明会 ○農水版ワークショップ 第4回中間見直し委員会 総合計画(基本構想・基本計画)の見直し案を報告 | 第6回作成会議 総合計画(基本構想・基本計画)の見直し案を審議 |
| 2月 | 令和2年第1回定例会 総合計画(基本構想・基本計画) 見直し案の議案審議 | | 各局PT(合同会議)等 全職員への後期計画の周知・理解促進 |
| 3月 | | | |

Ⅰ 中間見直し委員会での主な意見

○総合計画全般（多文化共生、SDGs）

- ・労働力としての外国人、あるいは住まれる外国人とどう向き合い、一緒に暮らしていくかが、新たな課題になっていく。4年前とは状況が変わっているため、見直しの中心的課題に、この課題が出てくるのではないかと懸念。
- ・日本を代表するSDGs未来都市として、もう少し強く打ち出すとともに、SDGsを市民が理解して、市全体で取り組んでいけるような形を分かりやすく落とし込んでいければいい。
- ・現在の検証指標はフォアキャストの考え方であるが、バックキャストの発想で指標を設定すれば、よりアグレッシブな計画になるとともに、中身も具体的に目に見える化できる。

○第1章関係

- ・性的マイノリティーへの理解促進が書かれているが、「多様性を認め合える共生社会の実現」のような文言を使っていたらいい。

○第2章関係

- ・高齢者ドライバーの痛ましい交通事故が起こっているが、免許返納といっても、公共交通が無い地域だと返納できない。高齢者の交通事故を減らすために、他の色々な分野が関わってくことをうまく書けたら総合計画的になる。
- ・住民自治活動のさらなる支援、人材担い手の育成について、自治会長などは高齢者が多く、同じ方が役員になる傾向がある。それ以外の方への働きかけについても今後考えてほしい。

○第3章関係

- ・見直しの方向性として、高齢者の権利擁護や児童虐待防止に向けてということで、成年後見等も高齢者も障がい者もすべて行っているため、ここに高齢者・障がい者の権利擁護と入れていただきたい。
- ・がん検診の完全無料化はとていいこと。熊本市は指定都市の中で受診率が低いので、受診勧奨が必要。特定健診も同じで、医師会としっかり検討していただきたい。

○第4章関係

- ・エンターテイメントという言葉が非常に大事であり、伝統文化もそうだが、都市機能の重要な要素。今後、文化やエンターテイメントを伸ばしていくことが必要。

○第5章関係

- ・今課題になっているプラスチックごみの削減に向けた対策に取り組むと書いてあるが、非常に評価するし、取り組まなければならないと思う。

○第6章関係

- ・神戸、東北地方は震災後に経済が低迷しており、もうそろそろ熊本も経済が低迷する時期に入ってきており、それに熊本市としてどう政策を立てて対応していくのか盛り込んでいただきたい。
- ・観光客の誘致体制の強化について、どのような取組を強化していくのか具体的に示した方がいい。また、市独自でできる取組と他市町村との連携が必要な部分もある。どこに向かい何をやろうとしているのか明確にした方がいい。
- ・市民所得の向上と雇用の創出に関して、熊本県で就職したくても職種があまり無く、県外に目を向けるしかない人も多い。企業誘致をどんどん進め、幅広く選べる環境をつくっていただけたら、熊本に留まる人も多くなっていく。

○第7章関係

- ・農業生産額の出荷額が平成27年から上昇傾向にあるが、震災後から生産に関わる経費が非常に多くかかっている。本当に競争力の高い持続的なことであれば、農家の収入、経費も含めた中で検証していく必要がある。

○第8章関係

- ・交通の利便性の向上に関して、MaaSや自動運転とか、これからの10年、20年で一気に交通が変わっていく可能性がある。
- ・「計画的な都市づくり」や「魅力と活力のある中心市街地の創造」の中で、今、議論になっている熊本市役所の建替えをどういう形でやっていくか。この先のことを考えた場合、例えば6章の「地域経済の発展」と市役所建替えは、当然関連してくる。

○第Ⅷ編「総合計画を推進するために」関係

- ・公共施設の適正化については、いわゆるモノの適正化による財源の削減ということだと思うが、モノだけではなくコトの適正化（行政サービス）についても重要だと考える。

2 市長とドンドン語ろう等の開催状況と主な意見

延べ参加者数：499人

| | 重点的取組 | 分野別（対象別）施策 |
|-----|---|---------------------|
| 5月 | 重点的取組（教育・健康・交通） 西区（120人）、南区（32人） 北区（40人）、中央区（65人） | 農水版ワークショップ（27人） |
| 6月 | 東区（61人） | |
| 7月 | | 農水版（果樹）（51人） |
| 8月 | | 経済版（復興の先の本市経済）（85人） |
| 9月 | | 外国人版（18人） |
| 11月 | 訪れてみたいまちづくり（70人） | |
| 1月 | | 農水版ワークショップ（13人） |

○教育

- ・先生方の事務の仕事が非常に多いと聞いている。それから放課後の部活の指導をどうするのか。先生方だけが指導されるのではなかなか手が回らないので、社会人を入れるとか、地域社会との連携もいいかもしれない。
- ・先生方が満足に教えていく、子どもたちが満足に学ぶためには、経済的な支援や、親の虐待から子どもたちを守ることなど、福祉的な側面が必要になる。
- ・大切なのは、相手を思いやる気持ちや道徳心だと思うため、それらを具体的に教育に取り入れていくと良い。
- ・いじめや不登校、大学卒業後も就職しない、引きこもり、そういう人たちが社会へ出て働けるようにすると力になる。今の社会は、勉強を覚えれば良いという弱者の置き去り社会になっている。生きる力の教育が一番大事。

○健康

- ・熊本市は食事から健康をつくることを推進していないと個人的に感じる。アプリでポイントが貯まることもいいと思うので、例えば食事とかそういうものも関係して、ポイントが貯まるようにできるといい。
- ・若いうちから健康づくりを習慣づける仕組みをつくっていただければと思う。
- ・社会的にも健康であるということでは、いろんな公民館活動に参加して生き生きしていくことは大事である。こうした活動は健康で長生きするためには重要なので、行政にも支援していただきたい。
- ・健康づくり教室やサロンを開催しているが、参加者はすべて女性。健康ポイントを検討する際には、男性が参加しやすいメニューや、ポイントの使用方法を検討していただき、それを我々地域で活用させていただきたい。

○交通

- ・高校に進学するにあたっては、交通機関によっては学校選択の幅が狭まる。学校の担当者と路線について話し合いを行うなどして、学生が利用しやすい公共交通機関が増えれば、進路選択の幅も広がるのではないかな。
- ・熊本市でもコミュニティバスを出しているが、人口集中地域を回っており、本当の過疎地域には回っていない。
- ・お年寄りから市電は人気があると聞いているが、その理由は時間の予測ができるからだと思う。そういう意味では、市電の電停からバスに乗り継ぎができれば利便性が向上するのではないかな。
- ・立体交差化がまったく進んでいない。渋滞緩和には立体交差化が一番効果があると思っているので、ぜひ総合計画に具現化の話を入れてほしい。

○農業

- ・地域の農業者間で農業生産法人を立ち上げ、就農希望者を受け入れることで、耕作放棄地や後継者不足の解消につなげたい。農業を継続できる環境づくりと人材育成に取り組む予定だが、市からもサポートをもらえないかな。

○産業

- ・市内の企業の大半が中小企業であり、若者の県外への雇用流出を防ぐために、中小企業で働く意義、働き甲斐などを学んでもらいたいと思う。そのために、若い世代におけるキャリア教育を行ってほしい。
- ・中小企業・小規模企業振興基本条例をより一層効果的に活用できる内容にするために、分科会や個別の内容でチームに分けるなどをして、皆さんの知恵を集めるといった仕組みを作ってはどうか。

3 学生ワークショップの開催状況と主な意見

| 学生ワークショップ | |
|-----------|---|
| 8/25 | 「働きたい、住み続けたい、みんな大好きなまち“くまもと”」（参加者数：40人） 市内に居住、もしくは通学する若者（高校生、大学生）が、10年後にも「働きたい、住み続けたい」と思える熊本の姿を描き、その実現のために参加者個人や行政等が1年後、5年後に何をすべきかについて、バックキャスト思考によるワークショップで議論。 |

（10年後の熊本のあるべき姿）

- ・都会すぎず、田舎過ぎない、暮らしやすい「ちょうどいい都会感」。
- ・自宅診療の充実。
- ・今ある地域の祭りが続いている。
- ・女性の政治リーダーの増加、女性の社会復帰
- ・若者の意見を政策に反映する仕組みづくり（定期的なワークショップ、SNS）。
- ・生物に囲まれた暮らし。
- ・夜でも一人で帰って安全なくまもと

4 まちづくりシンポジウム 開催状況

| シンポジウム | |
|--------|--|
| 10/20 | まちづくりシンポジウム 第1弾 「水辺を活かしたまちづくり」（参加者数：210人） 本市の施策である「交流人口の増加」や「水害対策」等に関連し、「水辺を活かした安全で賑わいのある先進まちづくり」をテーマとした、サンアントニオ市長による講演、対談。 |
| 11/17 | まちづくりシンポジウム 第2弾 「世界一訪れたい熊本のつくりかた」（参加者：193人） 重点的取組である「訪れてみたいまちづくり」に関連し、「世界一訪れたい熊本のつくりかた」をテーマとしたデービッド・アトキンソン氏による講演、トークセッション。 |

5 パブリックコメント 実施状況

実施期間：令和元年12月23日（月）～令和2年1月24日（金）（33日間）

提出件数：3件

6 地域説明会 開催状況

| 地域説明会 | |
|--------------|---|
| 1/9～ 1/24 | 第7次総合計画中間見直しに伴うまちづくり説明会（延べ参加者数：108人） 「第7次総合計画の中間見直し（素案）」、及びそれに関連する「しごと・ひと・まち創生総合戦略（素案）」、「歩いて楽しめるまちづくり」をテーマに市内17か所の公民館等で開催。 |

（説明会で出された主な意見）

- ・総合計画は立派な計画だと思うが、誰がいつまでに何をやるという5W1Hはどうなっているのか。
- ・住宅手当のような家賃還元策があれば、より多くの人が住んでみたくなるまちになるのではないか。
- ・防災マニュアルを県・市・地域それぞれで作っているが、統合して一つにまとまると分かりやすい。
- ・小学校から部活動がなくなると聞いており、子どもたちの体力の低下が心配である。
- ・公共交通をはじめ、市内の中心部と田舎で地域格差を感じている。今後考えていってほしい。